|  |  |
| --- | --- |
| 現代文2018年度  第二回　　「物語について、自分の読みと他の人の読みを出し合ってみよう①」 | 作成者：上山・濱部  実施日：2018.10.19  　　　　　　　　(金曜日) |

**基本情報**

|  |  |
| --- | --- |
| 【単元の目的】  生徒が、  ①小説に対して様々な解釈を認め、  ②自分なりの読む楽しさに納得感を持つ　　ようになる。  【今回の授業のねらい】  ・本文に書かれていないところまで掘り下げて考える感覚を味わう。  ・同じ小説のを読んだ人たちの様々な解釈に触れ、人によって違うものが出てくるのだということを知る。(物語のコンテンツに関して)  対象者（生徒・クラスの現状予想。テーマへの関心など。）  ＊以下は、単元の目的や今回の授業で取り組むことの視点を踏まえて書きましょう！  生徒の現状  ・本文を読んで、内容を読み取る力はもともとついている。(先生より)  クラスの雰囲気  ・普段、先生からの問いかけ、呼びかけへの反応は良い。  テーマへの関心  『山椒魚』の本文の通読は完了している。前回の終わりに初発の感想は各々書いている状態。客観的に物語の流れは理解しているが、そこから何が読み取れるのか、山椒魚が何を感じているのか等 物語に書かれていない内容について深めるところまでは行きついていない。 | 【今回の目標】　＊今回の授業のねらいを達成するには、生徒が何を完了すれば良いのか？  (1)物語の前半の内容について自分の解釈を出し、他の人と互いの解釈について語り合うことを通して、様々な読みに触れる。  (2)触れたことによって、自分は何を思ったかを改めて考える。  評価の観点と方法（目標と対応するように）  ＊完了度合いを何で測るのか？何をもって完了と見なすか？  (1)テーマ①②のそれぞれにおいて、ワークシートの2つの欄を埋めることができる。  (2)振り返りを、”自分の読み”と”他者の読み”を踏まえて書くことができる。  準備物など  ・ワークシート  ・振り返りシート(ワークシートの最後にくっつけてもいいかも)  ・PC(必要であれば)  その他  ＜備考＞  第2~3回は、『山椒魚』の物語を3つの場面に大きく分けて取り扱う。  (第2回)  **【場面1:意地っ張りで孤独から目を背けているとき**】(第一回のワークシート該当箇所→1,2)  **【場面2:自分の不甲斐なさに気付き、絶望するとき】(**第一回ワークシート該当箇所→3,4)  (第3回)  **【場面3:蛙の存在によって、久しぶりに話す相手ができたとき】**(第一回ワークシート該当箇所→5,6) |

**タイムライン（計40/45分）**。＊曜日によって持てる時間が変わるので注意！　(月金土:45分　木:40分)

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 構成 | 時間（分） | 活動内容 | 各活動のねらい | 予想される生徒の様子 | 大学生の対応 | 備考 |
| 導入 | 4分 | ・目的を確認  　〇色んな人の解釈に触れ  　〇”自分なりに”読む。  ・新しい大学生の簡単な挨拶  ・今回やることについて | ・今回やることを意識しつつ、その活動に対して意欲的になる。 |  | ・初めて現場に入った大学生は、前に出て挨拶。自己紹介シートに書いたことを踏まえても〇。簡単に。 |  |
| ワーク① | 13  分 | 討論テーマ①  **「山椒魚は、自分はずっと岩屋に閉じこもっているにも関わらず、なぜ外を眺めることが好きなのか。その時どんな気持ちで眺めているのだろうか。」**(p.118 L3)  個人で考える時間(3分)  語り合い(8分) | 個人の時間:  本文に書かれていない”山椒魚の気持ち”に思考を巡らせる。  語り合いの時間:  本文に書かれていないところになると、人によって捉えるものが違っているのだという感覚を味わう。  (人前で意見をまとめて述べる体験は先生の授業の中でも既に何度もやっていると思うので、この時間の使い方は班ごとに自由ということにしてみる。) | 個人の時間:  突然だと書けない子がいるかもしれない。  語り合いの時間:  〇生徒同士でやってほしい事  　・質問「何でそう思った？」  　・共感「確かに！面白い！」  　・比較「俺とここが違うね」  主にこれらのアクションを通して、班の全員が話せるのがベスト。 | 個人の時間:  「今までで知っている物語や映画にも、今の山椒魚の状況に少し似ている場面とか登場人物いないかな?」など、その子が知っているところから関連づけて思考を助けられたらベスト…。  語り合いの時間:  他者の発言について、積極的に「質問・共感・比較」を生徒たちに促す。自分がお手本になるのも良い。 | **＊**班の数は  　6人×4つ  　5人×2つ　　計6つ  ・個人の時間で手が止まってる子が少なく、全体的に進みが早い場合は討論の時間に早めに入ってもいいかもしれない。個人の時間で最初難しかった子は、討論で他の人がどういう思考をしたのかヒントを得ることで次はできるかも。  語り合いの時間:  最初はざっくばらんにみんなが話すのはやりづらいと思うので、一人ずつ回していくという形式に自分たちで納得したのであればその形式で進める班があっても構わない。 |
| 班替え | 3分 | 例)  班でじゃんけんをして、  ・1位 → 一個前の班に移動  ・ビリ→ 一個後ろの班に移動  など、短時間で班のメンバーを少しだけ変える。 | 授業全体の目標  「**様々な解釈**を」に該当。  メンバーが変わることで、物語に切り込む視点が新しくなるかもしれないという期待も込めて。 | 教室の三分の一くらいの生徒が班を移動。 | ここよりもワークに時間を割きたいので、混乱している生徒がいたらすぐに声をかけて移動させる。席につかせる。 |  |
| ワーク② | 13　分 | 討論テーマ②  **「小えびの様子を見て、『どうしても岩屋の外に出なくてはならないと決心した』のはなぜだろうか。」**(p.120 L8)  個人で考える時間(3分)  語り合い(8~10分) | 個人の時間:  ワーク①を通して、新たな切り口を加えた上でテーマについて考える。  語り合いの時間:  ①を踏まえて、今度は班の誰かがボソッと言った意見に対して  「それは自分とここが違うな」  「どうしてそう思ったの?」  などと話を深めることができると理想。 | 個人の時間:  ①で書けなかった子も、ここでは一言書けるようになってほしい。  語り合いの時間:  ここでも「質問・共感・比較」を念頭に置く。  普段からチームを引っ張る存在の子が中心に、機械的ではなく班の人がざっくばらんに意見を述べあったり、質問し合える関係ができればベスト。班によってはまた順番に話しているところはあると思う。 | 個人の時間:  基本的に机間巡視。  ワーク①で生き生きと発言していた子はきっと個人の時間は早く書き終わるので、そういう子には積極的に話しかけて自信をつけてあげる。  語り合いの時間:  ①と変わらず順番に発表しているチームがあったら、積極的にそこに入り、質問をしたりする。「深く聞く」という姿勢のお手本を見せる。 |  |
| 振り返り | 5分 | 振り返りの欄に記入。 | 他の人と解釈を述べ合うことに関して、また、それを通して自分の考えはどうなったか(変わらないのであればそれはそれでOK)について振り返る。 | 振り返りを記入。(個人) | 机間巡視。 |  |
| 今日のまとめ | 2分 | 今日伝えたかったこと、感じてほしかったことのまとめを行う。 | ①本文を読んでみんなが共通に読みとれることだけでなく、そこから一歩掘り下げて、書かれていないところまで想像する楽しさを味わってほしかった。  ②そしてそれを複数人で出し合ってみると様々な意見が出てくるということを体験してほしかった。 |  |  | 少し時間が余ったら、ワークシート回収して良い。 |

◎3つの場面でそれぞれ使えそうな(できれば深い話になってほしい)討論テーマ

※色付きが、色んな解釈が出そうだなぁと思ったもの。

　濱部の個人的見解です。

**【場面1:意地っ張りで孤独から目を背けているとき**】(第一回のワークシート該当箇所→1,2)

・なぜ山椒魚は、まる二年も岩屋に閉じこもっていたのか。(p.116 L6)

・なぜ山椒魚は、回りに誰もいないのに「俺にも相当な考えがあるんだ。」とわざわざ嘘を言ったのか。(p.117 L4)

・なぜ山椒魚は、自分はずっと岩屋に閉じこもっているにも関わらず、外を眺めることが好きなのか。どんな気持ちで眺めているのか。(p.118 L3)

・山椒魚は小魚たちを「嘲笑」しながら、どんな気持ちだったのだろうか。(p.119 L3)

**【場面2:自分の不甲斐なさに気付き、絶望するとき】(**第一回ワークシート該当箇所→3,4)

・自分の横っ腹にくっついた小えびが驚かないように、動くのを我慢したのはなぜだろう。(p.120 L1)

・小えびを見て、「どうしても岩屋の外に出なくてはならないと決心した」のはなぜだろう。(p.120 L8)

・自分は岩屋から決して出られないと自覚したときから、突然神様に訴えかけ始めたのはどうしてだろう。(p.121 L4、L13)

・山椒魚はまぶたを閉じている間、何を考えていたのだろうか。(p.122 L3~L15)

・なぜ岩屋に二年も一人でいたのに、今さら「寒いほど独りぽっちだ！」なんて言ったのだろう。(p.123 L3)